

# 令和3年度第1回白根飯野小学校学校関係者評価書

## I 学校関係者評価委員会の開催について

令和3年9月10日（金）に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症蔓延防止等重点措置発出中であったため紙上開催とした。学校評価を学校関係者評価委員の皆様へ送付し、御一読いただいた上、御意見等を学校に送っていただくという形で実施した。

### 【学校関係者評価委員】

NO	氏名	役職
1	市川和郎	元校長・学校評議員
2	飯野 久	学校評議員・南アルプス市議会議員
3	飯田哲夫	元校長・学校評議員
4	森本優作	学校評議員・PTA 会長
5	里吉武仁	飯野地区自治会長
6	望月一夫	飯丘地区自治会長

## II 学校から提案した内容

- (1) 教職員による前期自己評価アンケートの状況
- (2) 学校生活に関する前期児童アンケートの状況
- (3) 学校生活に関する保護者アンケートの状況
- (4) 白根飯野小学校前期自己評価書（アンケートの分析及び改善方策について）

## III 学校関係者評価委員会報告概要

本校の学校評価は、学校教育目標の実現（学校経営方針の実現に向けた本年度の努力点）のための取組状況を、教職員による自己評価に加え、保護者と児童によるアンケート調査結果を活用する中で、それぞれの立場を踏まえるとともに、これらに関わる設問に寄せられた意見や、日常的に行っている児童観察も加味して分析し考えている。

なお、今回の調査は1学期の取組が根拠となる。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の蔓延防止対策のため、様々な活動が削減されてきたことを考慮し、保護者アンケートの『9 学校は、授業参観・行事等学校開放に努め、保護者と連携し、その意見に耳を傾けている。』『14 P T A活動に進んで参加している』『15 お子さんを地域の行事に参加させている』については、質問項目から除外した。

## 【1】評価基準

全体傾向を把握するため、A B評価を肯定的評価とし、それらの合計が、80%を超えている場合は『満足できる状況』と判断した。また、C D評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は『改善の余地がある状況』と判断した。

(A: そう思う B: だいたい思う C: あまり思わない D: そう思わない E: わからない)

## 【2】各項目の分析

### (1) 確かな学力について

すべての項目において、肯定的な回答が非常に多く確かな学力を育成するための5つの取組は適切と評価できる。高い結果となり、非常に高い肯定的な回答となった。「対話し、学び、わかちあう子どもの育成 ～伝え合う活動を通して～」を研究主題として取り組んでいる校内研究を中心の軸とし、児童間の関わり合いを基盤としながら学習プロセスや言語活動を重視した授業展開によって、主体的・対話的で深い学びの実現を図り、学習指導要領で示される資質・能力の育成に取り組んでいる。保護者アンケート「3 子どもは学校の授業に進んで参加し頑張っている」、「4 子どもは家庭でも宿題や自主学習・読書など学習する習慣がついている」の項目においても、それぞれ96%、85%以上の保護者が肯定的な回答をしており、本校の教育に対して、評価していただいている結果となっている。ただ、「②児童が友達の考えや感想に耳を傾け、多様な考えを大切にしたい対話的な深い学習を創造することができたか」の結果を見ると、他の項目と比較し、わずかではあるが低い肯定的評価となった。感染症を蔓延させないための手立てとして児童間で対話する場面を避けたこと等が、その要因として考えられる。今後は、感染症対策を講じながら、学習課題の提示や学習の振り返りといった学習プロセスの確認や、言語活動の工夫等に取り組んでいくことが必要である。何を重視し、どこに時間をかけて指導するのか、といった視点を持つことも重要である。

GIGAスクール構想が前倒しとなり、ICT環境の整備が急速に進む中、本校でも9月3日からタブレット端末の持ち帰りが始まった。ICT機器等を効果的に活用した授業や家庭学習での活用法について、個別最適な学びと協働的な学びをさらに充実していかなければならないと考える。

#### 学校関係者評価委員の御意見

・教育現場における新型コロナウイルス感染症対策としては、先に見られた分散登校等、学校での滞留時間の抑制が有効な手段の一つと考えられている。タブレット端末の活用により、新型コロナの状況に応じて希望者には家庭で授業を受けられる体制が整うことを望む。なお、実施に際しては、各家庭の事情（子どもを一人にできない等）にも配慮した柔軟な取組を期待する。

・ICTによる学習は、要因が多様的でわかりにくいことから、個人差が顕著にあらわれやすい。それが家庭学習となると、さらに格差が増すと懸念される。そのため、個人差があらわれた時点でいち早く是正する必要がある。

## (2) 豊かな心について

7つの項目すべてにおいて、8割以上の肯定的な評価を得た。中でも「①すべての児童に居場所がある。学校・学年・学級づくりに、それぞれの立場で務めることができたか。」、「②基本的人権と個人の尊厳を尊重し、いじめや不登校への対応や防止に取り組むことができたか。」、「③相手の立場に立って考える体験を重ね、自分がされて嫌なことを言ったり、したりしない子どもを育てることができたか。」の3項目については95%以上の肯定的評価となっている。また保護者アンケートの「1 子どもは白根飯野小学校に楽しく通学している」、「5 子どもは学校・学年・学級で理解され、心の居場所を持っている」、「6 子どもは人の心を思いやり、豊かな心を育てている」の3項目について93%以上の肯定的な回答を得ている。日頃から教職員が学級・学年経営の充実を図り、教師と児童の信頼関係や児童相互の好ましい人間関係を育てることの成果であると考えられる。今後も児童理解のために教職員と児童間、教職員と保護者間でのコミュニケーションを図ること、またスクールカウンセラーや関係機関とも連携を図る中で、問題行動の早期発見・早期対応に全教職員が一丸となって取り組んでいくことが大切である。

またSNSやオンラインゲーム上でのトラブルも喫緊の教育課題であり、友達関係に大きな影響を及ぼすこともある。本校では1学期に4年生児童を対象に南アルプス警察署生活安全課の方を講師として招聘し、お話をしていたが、保護者を含めた形で学習の機会を設け、取組を本格化させていく必要性を感じている。

### 学校関係者評価委員の御意見

・保護者アンケートにおける「1 子どもは白根飯野小学校に楽しく通学している」等、3項目で93%以上の肯定的な回答については、保護者と学校との信頼関係に基づく安心感の表れと考えられ、非常に好感が持てる。

SNSやオンラインゲーム上でのトラブルは、全国的な課題と考えられるので、他校との情報交換も有効な対策につながるのではないかと。

・コロナ渦での児童の心の持ちようは、それ以前に戻すことは大変難しい。児童が自分の心を伝えるのに対話は大変重要と考える。自分を解ってもらいたい信号をいち早く汲み取ってほしい。居場所づくりでは、行政、NPO、個人と様々に実在しているが、まずはあるぷす教室の活用を願いたいと思う。

### (3) 健やかな体

自己評価において、「1 運動の苦手な子どもも自己の進歩や達成感を味わわせ、運動習慣を育むことができたか。」「2 日常的な運動・食事・睡眠と健康について理解を深め、健康な生活習慣を育むことができたか。」の両項目とも、94%、95%の肯定的な評価となった。また保護者の評価においても、「2 子どもは、仲間と協力し、行事や活動に粘り強く取り組んでいる。」「10 子どもは安全を意識して登下校している。」「12 御家庭では、早寝・早起き・朝ごはんに取り組んでいる。」の項目については、91%以上の肯定的な評価となっている。日常的な運動や食事、睡眠への理解や取組、また休み時間等の外遊びの励行、登下校中の児童の安全意識を高める指導など、今後も家庭や地域と連携を図りながら、取組を継続していくことが大切である。

#### 学校関係者評価委員の御意見

- ・他の項目同様に、職員及び保護者アンケート結果で高い肯定的評価となっており、総じて高い取組意識が伺える。一方で少数ではあるが、否定的評価も存在するので、可能な限りにおいて、否定的評価のフォローを期待する。
- ・「腹が減っては戦ができぬ」の例えの通り、体を使って、食事をおいしいと思わせることが単純でよい方法。早寝早起きより、早起き早寝の習慣が望ましいと考える。

### (4) グローバルに活躍する人材

すべての項目において、良好と判断できる結果となった。グローバル人材を育成するために必要なことは、「進んで社会と関わる態度や意欲を持つこと」や「日本とは異なる文化に触れること」が必要不可欠である。また世界のことを自分事としてとらえる視点を持ち、自分の生き方や生活と結び付けて考えたりすることができるような力をつけていくことも求められている。今後も担任とALT（外国語指導助手）が協働し、また教科横断的な視点を持ちながら、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成していくことが大切である。

#### 学校関係者評価委員の御意見

- ・SNSの急速な普及をもって、今後益々国際社会が身近になる未来が予想される。グローバルな視点を持つことは、未来を担う子どもたちにとって重要な要素であると思われるので、引き続きの取組を期待する。
- ・まずは、地域のことを知る。そしてそれを人に話す。つまりシビックプライドをいかに醸成させるか。さらに話す人を外国の人にまで広げ自信をもって、話すことができるようにすることで、グローバルな子どもの基礎が培える。

## (5) 特別支援教育の推進

4つの項目すべてにおいて、肯定的な評価であった。教職員一人一人が個々の能力や経験を生かして相互に協力・理解を図りながら組織的な取組を行っていることの成果であると考えられる。また、個々の児童の抱える様々な問題や特別な支援を必要とする児童の増加に対しては、教職員間の意思疎通を図りながら組織的な対応を進めている。特別支援教育コーディネーターを中心に、ケース会議を開催し、情報共有と指導・支援内容の相談・確認を行う中で、個々のニーズに応じた指導や支援ができるよう、積極的に関係機関とも連携を図りながら対応していくことが大切である。

### 学校関係者評価委員の御意見

- ・ 個々のニーズに応じた指導や支援ができるよう引き続き対応を期待する。
- ・ この課題こそマンツーマンで個性に応じて実施しなくてはならない。継続的に実施することが重要だと思う。

## (6) 保護者・地域との連携

本校では、これまで様々な教育活動の場で地域住民や学校関係者の支援を受けている。また、環境整備作業や運動会への協力など、保護者の力を借り、教育活動を行ってきている。

昨年度以来、新型コロナウイルス感染症の影響により、支援を受けづらく、充実した教育活動の機会が失われてしまっている。「2 P T A活動等を通して、保護者との協力関係を築くように努めることができたか。」の肯定的評価が86%と1つめの項目(同95%)と比較して低いのはこのためであると考えられる。

登下校の見守りや文化活動等、地域住民や保護者の協力なしでは実現できないこともある。P T A活動や学校だより等において協力、連携を呼び掛けていくとともに「郷土を愛したくましく生きぬく子ども」の教育目標を大切にし、小中一貫の実現に向け、社会に開かれた教育課程の充実を図っていきたい。

### 学校関係者評価委員の御意見

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、肯定的評価がやや低くなることは理解できる。地域住民としても協力していきたいと考えているので、引き続き「郷土を愛したくましく生きぬく子ども」の実現に向けた取組をお願いしたい。
- ・ コロナ禍で、学校、家庭、地域の関係が希薄になってきた感がする。今こそ関わりあいを広げ、原点にもどって活かしてほしいと思う。